凍る街にホットライン

「クビになる」「破産しかないのか」訴え切々

多重債務や非正規雇用の解雇問題などの相談を受け付けた「年越し電話相談会」＝24日、松山市北立花町

松山の団体が電話相談

多重債務者ら45件

不況の波 深刻

借金重ね悪循環に

年末年始を前に二十四日、全国一斉の「明るいクリスマスと正月を！年越し電話相談会」（反貧困ネットワークなど主催）があり、県内でも松山市に窓口を設置、借金苦を中心に約四十五件の相談が寄せられた。

多重債務者の救済などに取り組む市民団体「松山たちばなの会」の事務所（同市北立花町）に窓口を開設。こと し全国巡回した「反貧困キャラバン」でつながりを深めた県内の司法書士、労働団体、市民団体から専門家十三人が相談員として参加し、午前十時から午後七時まで電話応対と面接に当たった。

窓口には、多重債務をはじめとした借金苦に加え、五菱会ヤミ金被害、生活保護申し立て、非正規雇用の解雇・雇い止めなど窮状を訴える相談が相次いだ。

相談員らは、多重債務は先送りせず債務整理する方法を、雇用問題には雇い主との交渉方法などを事情に応じて具体的にアドバイス。

後日の詳しい面談や生活保護申請への同行を約束したケースもあった。

「先月、仕事をクビに…。妻子がいる。家賃も滞納している」。貧困に端を発したさまざまな相談を受けた松山市の事務所。電話は二十四日午前十時の開始から、鳴り続けた。多重債務、解雇・雇い止め、生活苦。相次ぐ悲痛な声。世界的不況の波が県内にも押し寄せ、深刻化している。

東予地方で働く派遣社員の三十代男性が訴える。「来年三月にクビになる。借金の取り立てがあって実家には帰れない」。年末でリストラされるという中予の三十代男性。「勤め先の零細企業も経営難。住宅ローンが三十年残っている。破産しかないのか」

いったん雇用継続が約束されたのに、撤回されたという食品会社に勤める三十代男性は電話の向こうで途方に暮れた。相談を受けた労組職員は「会社の雇い止めを受け入れる前に、ひと言でも労組に相談していれば」と残念そうに話す。

経済的に不安定な非正規雇用では、貯蓄どころか借金を重ねる。そのために割に合わない仕事に就かざるを得ない。不安定雇用、さらなる借金、悪循環に陥ってしまう。

松山たちばなの会の青野貴美子事務局長は「借金と雇用を合わせて考えると、あらためて問題の大きさが浮かび上がる。不安定な雇用形態こそ直していかなければならない」と憤りをあらわにした。

ほかにも困窮の要因は多岐にわたる。消費者金融から借りた五百万円が重荷になって生活が行き詰まった中年男性。友人に頼まれて借金の名義を貸した中年女性は数百万円の債務を背負い「とても払えない」と声を絞り出した。

年利２００％超の違法なヤミ金被害に遭った高齢女性は、貸し手が知人のため関係悪化を恐れて言われるがままに支払い続ける。電話を受けた司法書士は「関係を断ち切るしかないとアドバイスしたのですが…」。トンネルの出口が見えない。深いため息が漏れた。

居酒屋食中毒 セレウス菌か

四国中央 県推定

四国中央市寒川町の居酒屋が提供した料理による食中毒で県は二十四日までに、原因を

セレ
と発
県は、
内の
菌を
いた
残り

県警本
部、知
支出相
るよう
請求を
員は要
する
る。
請求
県警に

電話
440
回

二十
ごろ、
目の
工事中
NTT
光ケー
て切断
約四百
になっ
本愛媛
旧を
ごろ